



学校創立140周年
百年松

阿木名小中学校便り 令和元年11月20日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あきらめず
あきらめず努力する子ども
あきらめず努力する子ども
あきらめず努力する子ども
仲よく笑顔いっぱい子ども
～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～

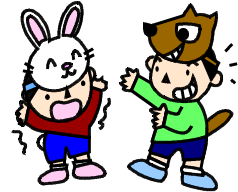


阿木名小中学校

自律して生きる力

校長 川原 啓司

「かごしまの教育」県民週間の期間中(11/1～11/7)は保護者や地域の方に多数来校していただき感謝申し上げます。なかでも11/1(金)の総合文化発表会では練習を重ねてきた創作劇や表現活動、郷土芸能など、それぞれの学年らしさがあふれた発表を見ていただきました。子どもたちの輝きに満ちた姿を通して「子どもは可能性の塊である」と感じて頂いたことと思います。



さて、先日東京都千代田区立麴町中学校長である工藤勇一先生の講演を聴く機会がありました。先生は公立中学校の校長でありながら様々な学校改革に取り組むとともに、著書である『学校の「当たり前」をやめた。』が話題となっている方です。改革の一例として「宿題の廃止、定期テストの全廃、固定担任制の廃止、服装・頭髪指導の廃止、生徒会主催の運動会」など枚挙にいとまがありません。先生は「まず目的は何かを明確にしたうえで、解決の手段を考えていくことが大事だ」と言います。例えば、宿題を出す目的は学力を着けるためです。しかし一律に宿題を出しても、すでに理解している子はともかく、理解があやふやな子は分かるところはやるが、分からないところはそのままにしがちです。つまり宿題の目的が学力を着けるためではなく、ただ宿題をこなすことが目的になってしまいます。自律した学習者を育てるために定期テストも廃止しています。自分自身で「わかる」「わからない」を判断し、「わからない」を「わかる」に変えるように計画的に学習に取り組ませているということでした。また、自律した子どもを育てるには手をかけすぎない事が重要だと言います。手をかければかけるほど、それが当たり前という感覚になり、いざ一人で問題に直面した時にうまくいかないとなりのせいになるようになる。そのため麴町中では周りの企業や大学と連携して様々な体験活動を設定したり、体育祭や文化祭を生徒会行事として実施したりしているそうです。このように自律した子どもを育てるための様々な実践はとても刺激となる内容でした。



本校をはじめとする鹿児島県の公立学校の約50%はへき地・小規模校です。麴町中の取組をそのまま取り入れることは現実的に難しい面があります。しかし各校では地域に根ざし地域に開かれた教育が数多く実践されています。本校でもこのような小規模校の特性を生かしながら、これからもふるさとに誇りと愛着をもち、自律した子どもの育成に向けて取り組んでいきたいと考えています。